

農業



平成26年6月号
会誌 No. 1586

目次

巻頭言

食品の安全を考える……………高野 克己 3

論 壇

つなぐ人たち……………田中 耕司 4

現地セミナー

いま、秋田の農業をどう拓くかⅢ (2)…………… 6

—秋田の持ち味を活かした農業経営戦略の展望—

事例の紹介…………… 6

パネルディスカッション…………… 16

農事功績者座談会

未来を見据えた野菜作り…………… 25

私の経営と農業への思い……………横江 傳造 26

現地指導者のコメント……………榎木 秀和 30

意見交換…………… 33

寄稿

- 日本における初期イナ作のすがたを探る……………稲村 達也 46
—農学と考古学のコラボ—

研究の最前線

- 農業における ICT（情報通信技術）の活用……………細川 寿 55

農業・農村の現場から

- サツマイモを用いた新しいお菓子開発とその発展……………郷原 拓東 63

世界の農業は今

- ラオス農業の格差構造……………安藤 益夫 68

- 農政情報…………… 72

- 大日本農会だより…………… 73

表紙写真説明

バラの選花場（奈良県生駒郡平群町）

平群町は、奈良県の西北部に位置し、西の生駒山地で大阪府と接しており、小倉百人一首でも有名な竜田川が町の中央を流れ、大阪のベッドタウン化も進んでいる。この町は豪族・平群氏が本拠地としたところで、聖徳太子の創建と伝えられる信貴山朝後孫子寺など数多くの歴史遺産がある。平群町の基幹産業は農業で、町西部の山麓部では小ギク、バラなどの花き類やブドウ栽培、東側平坦部ではトマト、イチゴなどの果菜類が栽培されている。

昭和40年代に洋花栽培に関心を持った7戸の農家が「平群温室バラ組合」を結成し、昭和48～50年に第二次農業構造改善事業を活用して温室群を整備し、切りバラの周年栽培をはじめた。現在は近くの住宅地から多くのパートを雇用し、5戸の農家が二代目を中心に若さあふれる産地を形成している。

燃料費の高騰などバラの生産環境が厳しいなか、共同選花・共同販売、縦箱湿式輸送とコールドチェーンによる鮮度保持、バーコード管理による市場出荷、バラ苗生産、直売所での販売など、他産地に先駆けた取り組みをしている。なお、詳細は8月号に掲載します。

（写真：編集部）